

平成23年度 地域とともにある学校づくり推進協議会(新潟会場)
実践発表 平成23年10月28日(金)

三鷹市の

コミュニティ・スクール

三鷹市教育委員会

教育施策担当課長

松永 透

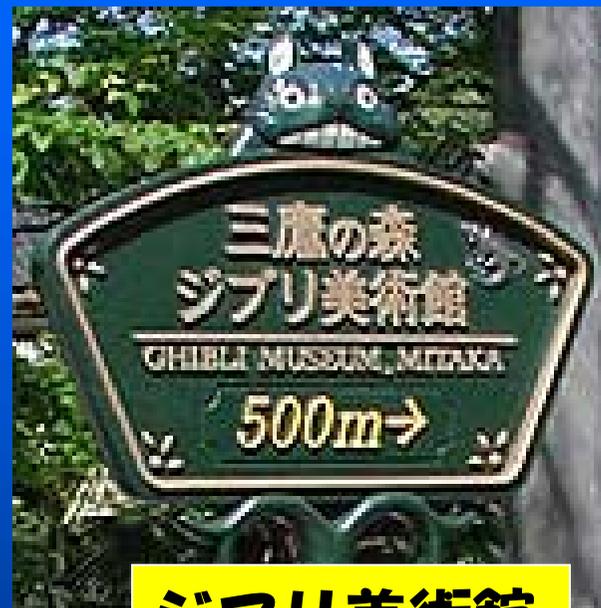
三鷹市

面積：16.50km²

人口：約18万人



山本有三記念館



ジブリ美術館



国立天文台

三鷹市の学校教育の理念

学校自由選択制を実施しない理由

- 質の高い教育の提供をどの学校においても保証する(義務教育9年間に責任をもつ)
- 地域全体で『共に』子どもを育てる

三鷹市自治基本条例第6章「参加及び協働」第33条

- 保護者、地域住民等の学校運営への参加を進めることにより地域の力を活かし、創意工夫と特色ある学校づくり
- 学校を核としたコミュニティづくりを推進

三鷹市のコミュニティ・スクール指定状況

H18.10.6	三鷹市立第四小学校 三鷹市立第七中学校
H19.4.1	三鷹市立第二小学校 三鷹市立井口小学校 三鷹市立第二中学校
H19.7.11	三鷹市立大沢台小学校 三鷹市立羽沢小学校
H19.9.10	三鷹市立第一小学校 三鷹市立第三小学校 三鷹市立第六小学校 三鷹市立南浦小学校 三鷹市立中原小学校 三鷹市立北野小学校 三鷹市立東台小学校 三鷹市立第一中学校 三鷹市立第六中学校
H20.4.1	三鷹市立第三中学校 三鷹市立第五小学校 三鷹市立高山小学校
H20.9.1	三鷹市立第七小学校 三鷹市立第四中学校 三鷹市立第五中学校

平成18年度の2校の
指定をスタートに
順次平成20年度までに

小学校 全15校
中学校 全 7校

全ての市立小・中学校
合計22校が
コミュニティ・スクールに

三鷹市のコミュニティ・スクールの特徴1

「小・中一貫教育(学園)」とセットで実施

⇒「コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育」

- ・各学校の「**学校運営協議会**」と
学園の「**コミュニティ・スクール委員会**」の存在



「**各学校へのきめ細かい対応**」と
「**中学校区を単位とした地域づくり**」の両立

三鷹市立小学校学区区域小学校

15校(児童数 7,910名)

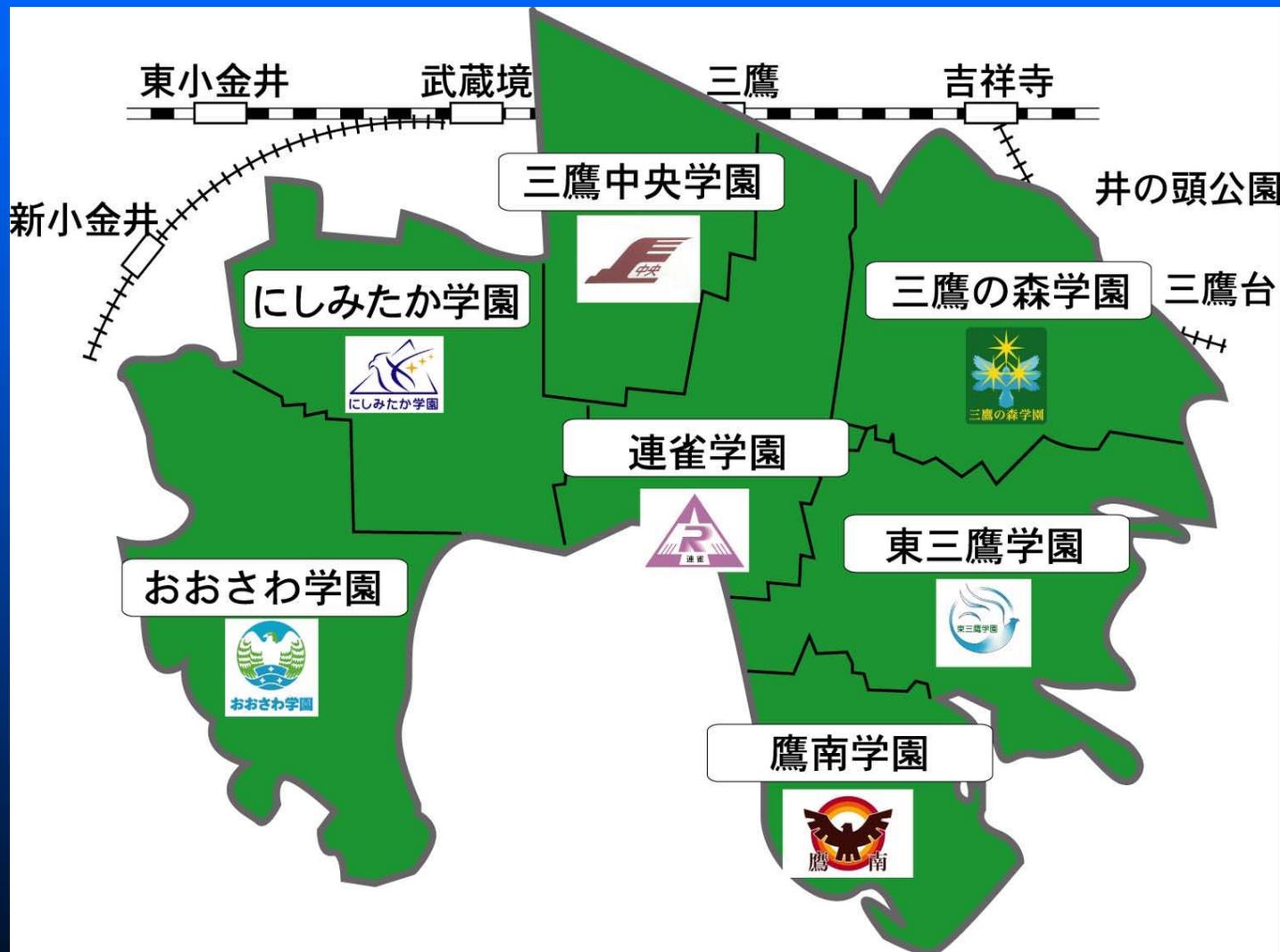


三鷹市立中学校学区区域中学校

7校(生徒数 3,204名)



三鷹市立小・中一貫教育校 7学園



三鷹市のコミュニティ・スクールの特徴2

コミュニティ・スクール委員会による 「学園評価・検証」の実施

H21年度以降、7学園のコミュニティ・スクール委員会が、

各学園の評価・検証を実施

- ・学園運営、教育活動等の成果と課題、改善策、
- ・課題解決のための創意工夫、改善策の有効性等

市教委に報告⇒ホームページ上で公開

平成22年度

三鷹市立小・中一貫教育校 全7学園の評価・検証報告



三鷹市教育委員会

(5) コミュニティ・スクールの運営

- ・コミュニティ・スクール委員会の組織・運営
- ・保護者、地域住民の学校運営への参画の状況
- ・学校と保護者、地域住民との連携・交流



○成果

- ・教科等の指導計画に合わせ、**地域人財の活用**がなされた。その結果、児童・生徒の学習意欲・能力は向上している。
- ・**地域団体が実施している諸行事への児童・生徒・教員の参加も増えた。**
- ・コミュニティ・スクール委員会は、毎月開催し、会長を中心に、活動は軌道に乗った。
- ・コミュニティ・スクール委員会の各部会がそれぞれ特徴をもった活動を行うことで、**学校と地域を繋ぎ、教育活動の充実を図れた。**

三鷹市教育委員会としての支援

「学校支援者養成講座」の実施

NPO三鷹ネットワーク大学推進機構との協働

1 学校支援者の裾野を広げる

- ・CSに興味ある市民を学校支援につなげる仕組みの整備
- ・「子どもへの算数教え方教室」で、具体的な学習支援場面の指導方法の理解

2 学校支援を学校のニーズにマッチさせる

- ・学校教職員を講師に、学校の求める支援ニーズを発信

3 学校運営協議会委員のためのテキスト作成・配布

- ・「委員の手引」により考え方を示し、自信をもった活動を推進

平成23年度 三鷹市立小・中学保護者アンケート

調査結果から

◎コミュニティ・スクールとなってからの学校や地域は？

＜肯定的に回答した保護者が70%以上の項目＞

- 1 様々な大人が子どもたちとかかわる機会が増えた
84.3%
- 2 地域が学校に協力的になった
76.7%
- 3 学校は地域に情報提供を積極的に行うようになった
74.7%

平成23年度 三鷹市立小・中学校保護者アンケート

調査結果から

◎コミュニティ・スクールとなってからの学校や地域は？

＜肯定的に回答した保護者が60%以下の項目＞

1 適切な教員人事がなされた

55.0%

2 児童・生徒の学習意欲が高まった

56.3%

3 地域が活性化した

59.6%

学校理解→苦情の減少

- ◆ 情報がより詳細に、頻繁に発信されるように。
- ◆ 学校の教育活動への理解が促進された。
- ◆ コミュニケーションの増加→不安の減少
- ◆ クレーム→意見・提案、相談、協力

「地域の力」を再発見

- ◆ 出合いが増え、かかわりがもてた。
- ◆ 地域の事業者を改めて発見。
- ◆ 地域の思いを改めて知る。

協力体制の強化

- ◆学校、地域・保護者それぞれが必要とされる存在に。
- ◆できることに、惜しみなく「力」を出し合う。



地域の活性化

学校教育の充実



**スクール・コミュニティ
の創造**

コミュニティ・スクールの
導入の在り方・充実に向けた方策
ーにしみたか学園の実践を通してー



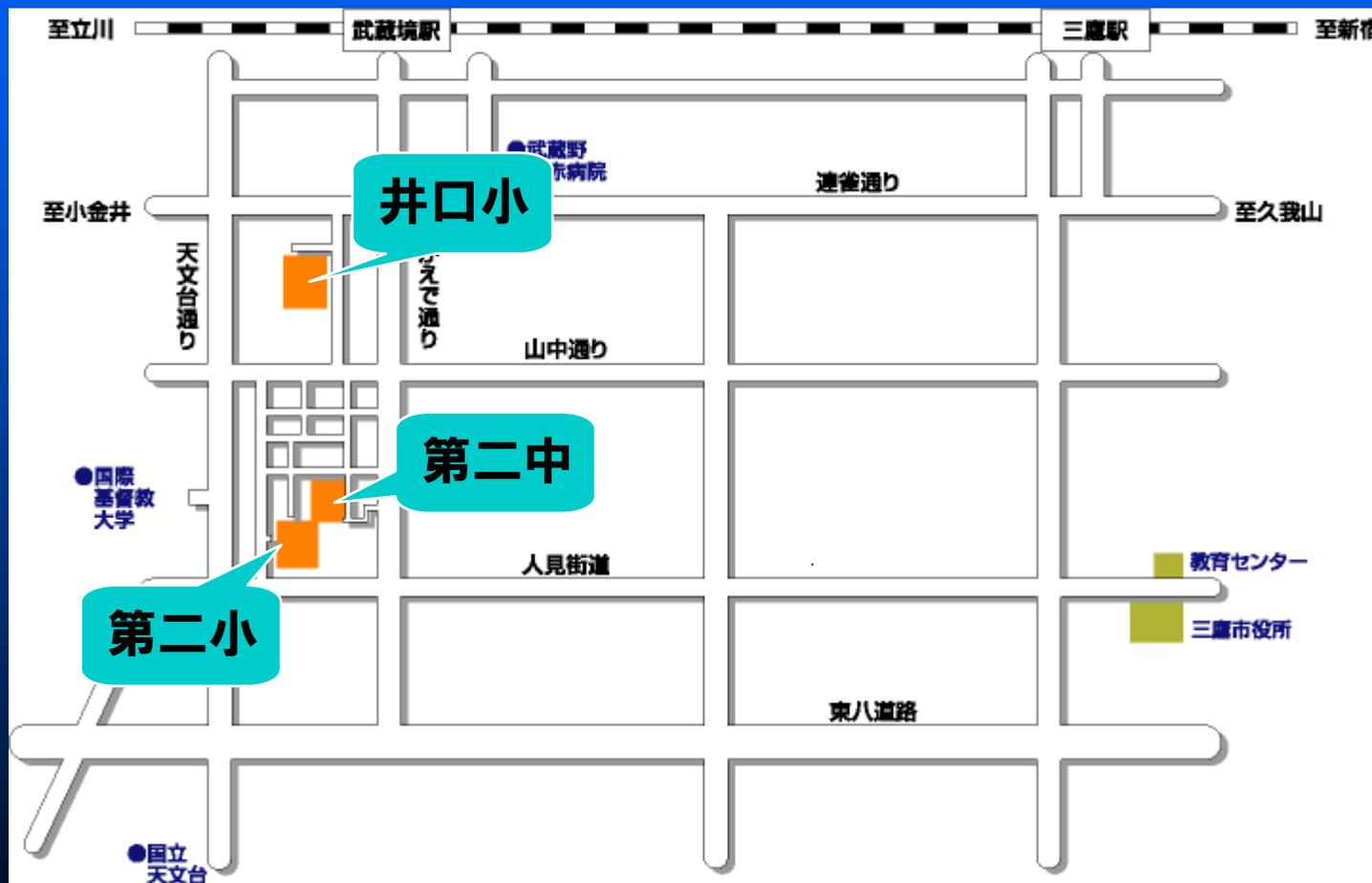
にしみたか学園

三鷹市立第二中学校長 榎本智司

平成23年10月28日

◇にしみたか学園◇

コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育校
第二中学校・第二小学校・井口小学校



◇にしみたか学園の コミュニティ・スクール委員会◇

コミュニティ・スクール委員会

第二小
学校運営協議会

第二中
学校運営協議会

井口小
学校運営協議会

3校の「学校運営協議会」は同じメンバーで構成

◇コミュニティ・スクールに ついての基本的な考え方◇

- 協議機関であること
(イベントの実施機関ではない)
- 部会、役員会の活動を重視すること
- 学校情報は積極的に提供すること
- 教員人事については、学校の求めに応じて協議すること

◇コミュニティ・スクール委員会 の委員構成 ◇

	昨年度 22名	今年度 19名	残留者 11名
(学識経験者)	2名	1名	1名
(地域協力者)			
青少年地区対策委員会	2名	2名	1名
交通安全対策地区委員会	2名	2名	1名
保護司・民生児童委員等	2名	1名	0名
地域協力者	3名	2名	2名
中学校同窓会長	1名	1名	1名
地域幼稚園副園長	1名	1名	1名
(保護者代表) 3校PTA会長	3名	3名	0名
(学校代表) 3校校長・副校長	6名	6名	4名

○ コミュニティ・スクール委員会委員の固定化



—平成23年4月1日 規則の改正—

- ・委員の任期は、2年とし、再任をさまたげない
- ・引き続いて4任期を越えて存在できない(追加)



○ 今年度、19名中8名が入れ替え

- ⇒ (成果) 発想の転換、新たな試みの導入
(課題) 地域人財の高齢化、固定化

◇コミュニティ・スクールの会議 ◇

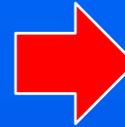
- 部会(副会長、各部員)(月1回)
 - 各部の活動についての方針の検討
- 役員会(会長、副会長3名、3校の管理職)
 - 各部の活動報告 (月1回)
 - 学園運営に関する議論
- 全体会(全委員、3校主幹教諭6名)(年9回)
 - 学園評価の協議
 - 学園マニフェストの策定
 - 役員会での決定事項の報告
 - 学園に関する報告、議論

コミュニティ・スクール委員会 (3校合同の学校運営協議会)



全体会

(昨年度)
7回



(今年度)
9回

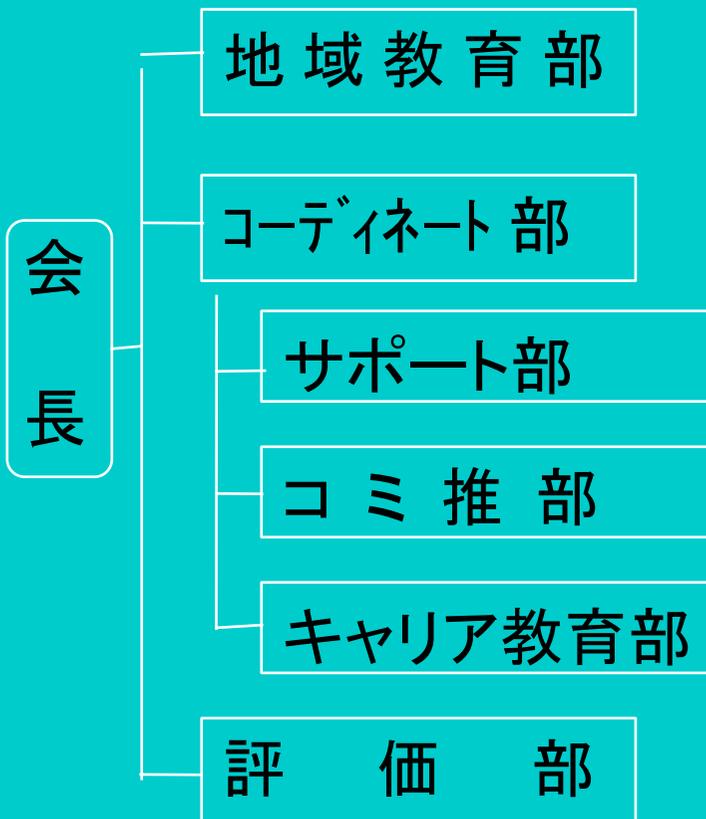
- (課題)
- ・委員会の活動が理解しにくい
 - ・委員の所属意識が低下する
 - ・学校からの参加者が限られる



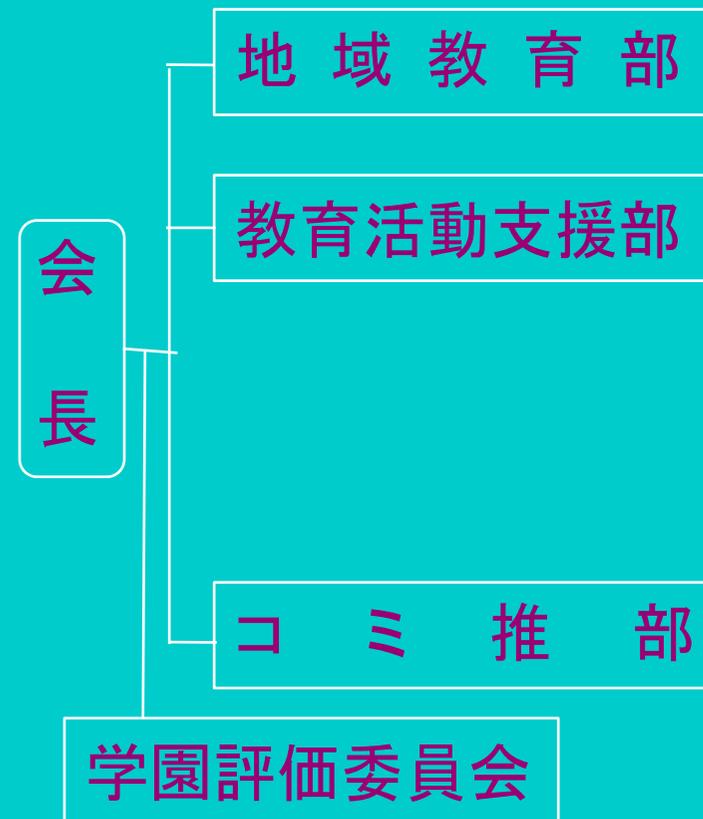
- (改善点)
- ・委員会の回数を増やす
 - ・配布資料の工夫をする
 - ・主任教諭に年1回は参加させる
(主任教員数15名／全教員数80名)

◇コミュニティ・スクール委員会の 組織◇

(昨年度まで)



(今年度)



- 地域教育部
 - ⇒ 職場訪問、職場体験の対応
 - 地域清掃、地域行事の対応
- 教育活動支援部
 - ⇒ サポート隊の募集・管理
 - 教育活動の支援
- コミュニケーション推進部
 - ⇒ 学園SNSの管理
 - 小・中一貫だよりの編集・発行
- 学園評価委員会
 - ⇒ 学校評価の実施、公表

(昨年度まで)

- ・各部の役割が不明確
- ・組織改正のための話し合い、先進地域訪問
⇒ 委員のさまざまな思いから実現せず



年度当初に委員改選

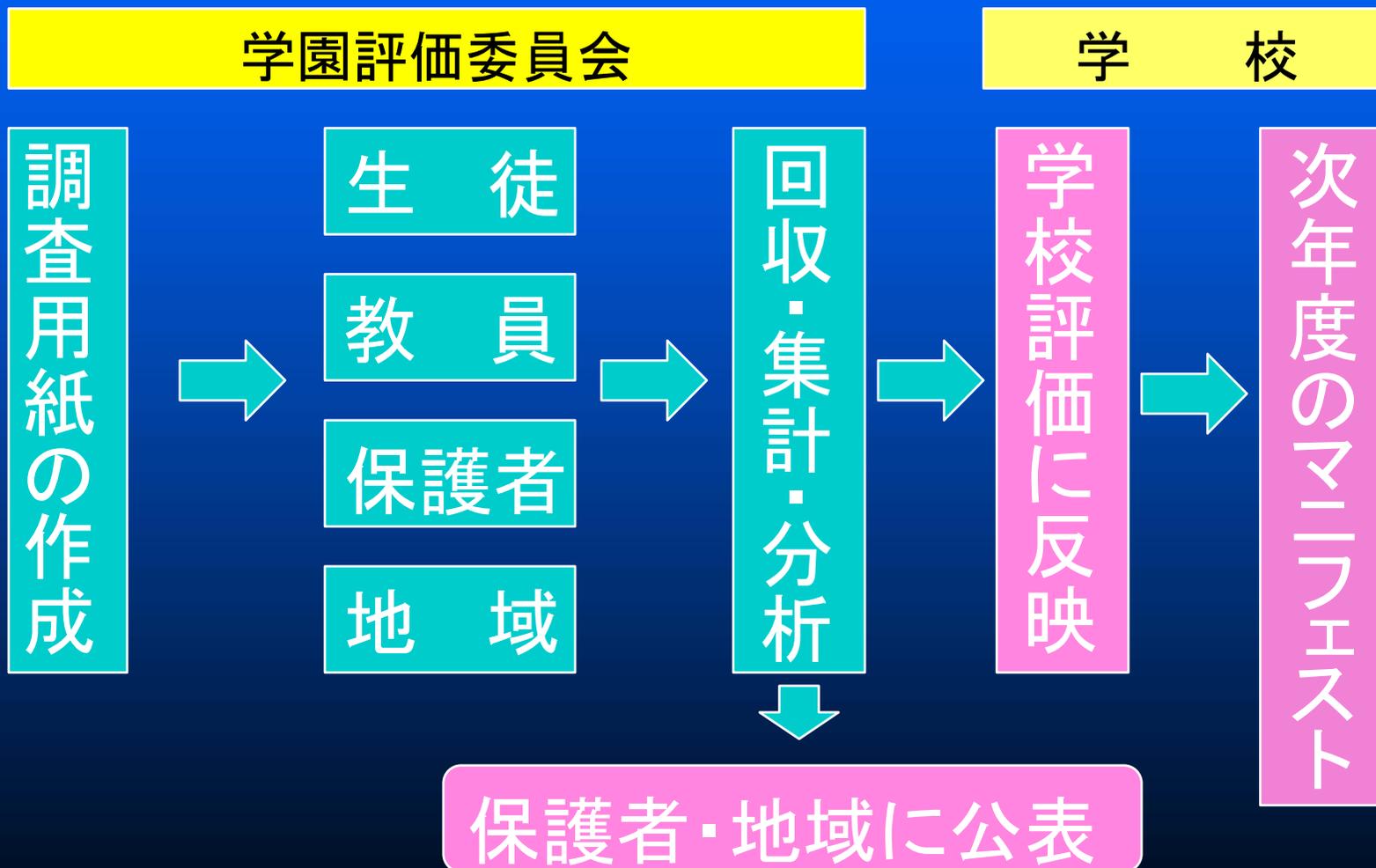
組織の改訂

(成果) 組織の活性化、役割の明確化

(課題) 実働メンバーの確保

◇にしみたか学園の

学校評価 ◇



(昨年度まで)

評価部会

部会の1つ

- ・委員3名
- ・副校長1名
- ・主幹教諭1名



(今年度)

学園評価委員会

部会とは別建て

- ・3部会から各1名
- ・校長3名
- ・副校長1名
- ・主幹教諭1名

○ 学園評価アンケート(保護者)回収率

平成19年度	平成21年度	平成22年度
51%	78%	88%

○ 学園評価アンケートから

	平成20年度	平成22年度
CS委員会が学園と協働して運営にあたっている	52%	61%
地域住民が学園づくりに参画している	46%	60%

○ 学園評価を巡る課題と対応

- 「わからない」を選択する割合が多い
- ⇒
 - 対象に応じたアンケート項目の設定
 - 平易な誰にでも理解できる表現

◇サポート隊（教育活動支援）◇

（昨年度まで）

（今年度）

- 事務局
 - 登録者の募集・管理
 - サポート者の募集
- 登録者
400名程度



- 教育活動支援部
 - 一部登録者の募集・管理
 - 学園全体にかかわるサポート者の募集

—サポート隊(授業等への補助)—



○ 学園評価アンケートから

	平成20年度	平成22年度
サポート隊が活動していることを評価する	85%	92%

○ サポート隊の活動延べ人数の推移

	平成21年度	平成22年度	平成23年7月まで
授業サポート	597人	426人	—
授業以外サポート	748人	150人	—
合 計	1,023人	898人	562人

(課題1) サポート隊事務局の膨大な事務

⇒ (対応) 事務を「教育活動支援部」に移管

(課題2) サポート依頼の事務作業の煩雑さ

⇒ (対応) サポート隊登録を3校にかかわる
ことに限定

(課題3) サポートに入った方の数の把握が曖昧

⇒ (対応) 「サポート隊参加簿」の作成

◇今後の取組◇

- スクール・コミュニティを支える人財の育成
- 3つの部会を支える実働部隊の組織
- サポート活動への参加者の拡大
- 委員と教職員との交流拡大

◇私のコミュニティ・スクール 推進のための基本的な考え方◇

1 ビジョンの明確化

⇒ 校長として具体的な考え方・施策の提示

2 地域・保護者との協働

⇒ スクール・コミュニティの視点の重視

3 校長の行動力

⇒ 軌道に乗るまでは校長が先導

4 「誰でも、どの学校でも」の視点

⇒ 管理職、職員が変わっても普遍の取組